

# g\*g

芸術市民とつしよに創る  
芸工大広報誌 [ジー・ジー]  
Vol.26 WINTER 2014  
東北芸術工科大学



# ソウゾウの収穫祭

創造力と想像力。目標を胸に芸工大で学んできた成果が、研究・制作となって実を結ぼうとしています。

1人ひとりが心の奥にあるソウゾウの種を持って入学し、山形の地で出会った人や自然、多くのものごとと関わり成長してきた豊かな実り。

東北、山形、芸工大が持つ空気感、風土、学生の資質をまるごと味わえる

「ソウゾウの収穫祭」が間もなく始まります。

1 大屋さんがデザイン検討の初期段階として描いたスケッチ。豊富な発想の中、すでにドーナツ型の形状のアイデアが浮かんでいます。



4

「コンセプトがぶれず取り組んでいるのが素晴らしい」「どんどん製品イメージを膨らませてくれることが、我々にとっても新しい気づきにつながっています」と語る、東北バイオエナ技術開発センターの渡辺輝一所長(右)と、根岸孝之主宰(左)。

2

(HVT方式)は、従来にはない薄さで、スピーカーの形を自由にすることができます。大屋さんのデザインは、このスピーカーを円型に装着。

展示用のモデルで使用するパーツの一部。空気の漏れをなくすため、プロダクトデザイン学科のコンピュータ制御で木材を切り出す機械を用いて制作しています。

## 地元企業とのものづくりが刺激に。新たな可能性を探るプロダクトデザイン

大屋彰 [プロダクトデザイン学科 / 長野県立木曾青峰高等学校卒業]

小学生の頃からものづくりに親しむ一方で、サッカーに夢中だった中学時代にはシューズデザイナーになりたかったという大屋彰さん。高校生の時にはインテリア科、工芸クラブに所属。靴だけでなく製品デザインの幅広さを知り、プロダクトデザインの道を志し、卒業後は大手機械製造メーカーに就職予定です。「大学では多くのことを学びましたが、一番良かったことは地域に根付いた地元企業と一緒にものづくりができたこと。他ではできない経験だと思います」と語る大屋さん。卒業制作として、東北バイオエナ株式会社(以下、東北バイオエ

ナ)が独自開発した技術(HVT方式)を用いた、新しいスピーカーのデザインを提案します。(HVT方式)は、高音質と薄型が両立できるのが特徴。コイルの水平な動きを、振動板の垂直な動きに変換する方式で、東北バイオエナのコア技術のひとつのこと。大屋さんは本社でこの技術を体感し、遠くまではっきりと届く音の美しさに感激。最先端の技術を用いて従来にはないインテリア性を考えたスピーカーを作ることを決意しました。360度の指向性を持ったスピーカーを向かい合わせて置いた時にどう聴こえるのか、より自然で心地いい音がす

る可能性を探り、8ヶ月もの検証を重ねながら完成を目指しています。長期間のものづくりに取り組む中で得たのは、微細な構造部分まで考えてデザインすることの重要性。「自分以外には東北バイオエナさんの技術者、開発者であるという環境の中で、今まで自分では0.01mmの構造まで考えることがなかったと気づきました。技術者の方の考えに触れることで、ものづくりに対する考え方が変わってきたと思います」という大屋さん。卒業では多くの来場者の方から反応を得たい、と意気込みを語りました。

WEB 東北バイオエナとのもうひとつ事例を紹介します。



### プロダクトデザイン学科

インテリア雑貨や家具、文房具はもちろん、衣服や靴、家電、自動車などを通して、これからの暮らしのデザインを学びます。共感や感動に繋がるモノをデザインする上で必要なのは、「モノ」だけでなく「コト」も考えること。形や色、素材それぞれが持つ意味や目的を理解するため、基礎から丁寧に学習し、実践的な専門演習を展開し、豊かな人材を輩出しています。

## 4年間の学びと父の夢が結実。地域に愛されるベーカリーが誕生

田中夏未 [建築・環境デザイン学科 / 山形県立山形北高等学校卒業]

中学時代に部屋をデザインするという授業を受けた田中夏未さん。出来上がったものに対し「これは実際には作れない」と先生から言われ、本当に実現不可能なんだろうか?と疑問を持ったことがきっかけで建築、設計の道へ進み始めました。そんな中、大学4年の春に父親がホテルベーカリーを辞めて独立開業を決意。担当である馬場正尊教授にそれを報告すると、田中さん自身が店舗設計することを提案され、卒業制作として取り組むことになりました。業務用キッチンや排気口など、大学では細かく学んでいなかった実用的な部分を、どの様に建物内に納めるのか苦し

たという田中さん。実際に設計を進める上で役に立ったのは、アイデアを共有するために演習で身に付けた模型作りだったそうです。「ダークブラウンとオレンジを基調としたデザイン、隠れ家のような佇まい、南側の大きな窓……」などのイメージを模型によって具現化し伝えていきました。「施工は隣にある工務店、建築申請は3軒隣の1級建築士の事務所に依頼しました。奇跡的に必要なメンバーが近くに揃っていて(笑)。私が小さい頃から知っている人たちなので、やり取りもしやすかったです。初めての仕事としてとても恵まれていたと思います」。店舗名「カラバン」のロ

ゴデザインはグラフィックデザイン学科の友人、藤田淑子さんに依頼。カタカナの鋭角的なラインとぬくもりあるデザインに、父の浩司さんも大満足でした。現在、田中さんは週に2~3度、接客をしながら店舗がどの様に地域に根付いていくかをデータ化し、研究を進めています。「設計者は建物を建ててそれで終わりではない」という田中さん。卒業後も建築デザインに関わっていきたく話す田中さんにとって、この卒業制作が継続的なチャレンジになっています。◎カラバンブログ URL: <http://reallyamagata7.blogspot.jp/>



### 建築・環境デザイン学科

「建築」「インテリア」「環境」「ランドスケープ」の4分野を、インテリアデザインから住宅や公共施設、街や都市、そして地球レベルでのエネルギーや環境施策など様々な視点で学びます。自然環境豊かな山形は、伝統や都市の規模を見ても絶好のポジション。震災復興に伴う集落の高台移転やエコハウスの建設など、実際に街づくりや建築の提案にも参画しています。



1

店舗内を明るく見せる南側の大きな窓と、日射しや雨をしのぐオーニング。父親の希望をヒアリングし、模型にもしっかり設置しています。



4

「完成した時にはそれまでの不安が喜びに変わり、パンが実際に並んだ時には、「始まるんだ」とワクワクしました。方言を使ってパンを作る「カラバン」が、山形らしさを残していく土台となれば」という田中さん親子。



2

木工事途中の「カラバン」躯体。施工が始まると工程の進捗が早く、完成までの過程を目にする毎日は感動の連続だったといいます。

3

店内に並ぶ商品。うつ伏せを意味する方言「ぬだばる」をそのまま商品名に。「ぬた(ずんだ)」の訛りと、うつ伏せの形をパンにする遊び心が個性的。



## 大学生が生産者と消費者を結び、 新たな企画「サケ×アテグランプリ2013」

大越智明 [企画構想学科/山形県立北村山高等学校卒業]

高校時代からマーケティングに興味があったという大越智明さんは、オープンキャンパスで出会った小川薫堂教授のワークショップに感激し、企画構想学科に入学を志す。「本物の企画」に触れ多くの刺激を受けながら、卒業研究として「サケ×アテグランプリ2013」を企画しました。内容は全国の20歳以上の大学生を対象に、大学所在地の日本酒(サケ)と肴(アテ)をプレゼンテーションし、試飲・試食後に人気投票を行いグランプリを決めるといふもの。「好きな酒に関わる企画をやらう」という所からスタートした大越さんは、地元酒店の協力のもと企画を膨らませていきました。大学生が地酒と料理を発見し組み合わせる

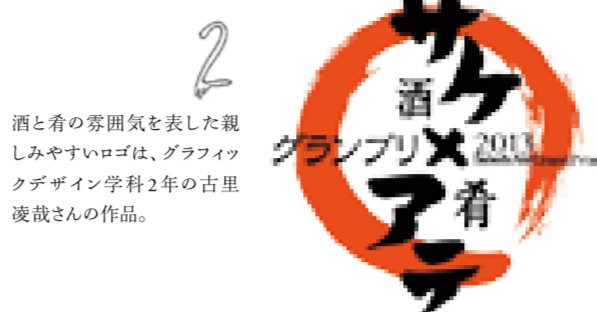
紹介する試みは、生産者と消費者を結びつける新しい企画として注目を集め、農林水産省平成25年度「食と農林漁業の祭典」推進委託事業に認定。2013年11月16日、17日に渋谷ヒカリエで「サケ×アテグランプリ2013」を開催するにいたりました。会期中は900名程の来場者が、和やかな雰囲気の中で酒と肴を味わう文化を楽しみました。「当日は、みなさんの嬉しそうなお顔が印象的でした。この企画は、どこ

の県でもどこの酒でもやるのができそうです。次回もやって欲しいという声が多かったので、今後の展開も考えていきたいですね」という大越さん。さらに深い提案を構想中です。

◎URL: <http://www.shoku-no-kizuna.jp/>



1 事務手続きやPRに企業の協力を取り付けるなど、いい経験を積むことができました。今後に活かしていきたいです。



2 酒と肴の雰囲気を表した親しみやすいロゴは、グラフィックデザイン学科2年の古里凌哉さんの作品。



3 来場者の平均滞在時間は1時間ほど。参加した8大学の学生が薦める酒と肴をゆつくりと楽しんでいました。

4 優勝したのは、新潟大学の「鶴齢(かくれい)×鮭の酒びたし」。地元新潟では夕刊のトップ記事にも。



### 企画構想学科

広告や広報、映像やHPなどのコンテンツ企画、企業や商品のブランド戦略など、あらゆる分野で人や社会を幸せにするアイデアを実現できる「企画力」と「実践力」を学ぶ企画構想学科。魅力の引き出し方や表現方法、コミュニケーションの手法、時代を見極める感性などを実例から習得します。諸問題を解決へ導き、実行する力は実社会で即戦力として活躍するものです。

## 心の奥にあるいくつもの場面を映像化。 大切な仲間と作り上げた「はじまりの後奏曲」

風間太樹 [映像学科/学校法人山本学園高等学校卒業]

映像学科4年の風間太樹さんが中学時代に抱いた「テレビ業界で活躍したい」という想いは、映像学科で学ぶうちに「映画をつくりたい」という夢に変化。卒業後は大手映像制作プロダクションに就職予定です。芸工大に入学し、2年の時に参加した映画づくりプロジェクトでは、プロの撮影現場やカメラマンとの出会いが大きな刺激となり「現場でカメラを回したい」と、より具体的に目標を描く様になりました。風間さんが卒業制作として取り組んでいるのは40分の映画作品「はじまりの後奏曲」。立ち入り禁止になった廃村に隠れ住み、その場所から離れられなくなっている主人公と、その理由から解放しようとする幼馴染みの物語です。

撮影場所に選んだのは、風間さんが大学1年の時に廃校になった母校、南陽市の旧中川中学校や小学校のプール。夏祭りの風景も風間さんにとって懐かしいものだったといひます。「作品には、自分がいつか撮りたいと思っていたいくつもの場面が出てきます。卒業したら地元を離れると思うと、撮影をしていて心に湧いてくるものがありました」と、撮影を振り返ります。協力してくれた仲間たちの存在も、風間さんにとっては貴重なものでした。「作品の中で主人公が見つめるものは、実は僕が一番見つけたかったものかもしれません。この作品を観て、自分の一番近くにある存在に気づいた瞬間の幸せを感じてもらえたら」と語りました。

3 映画制作に関わる全てが楽しかったという風間さん。撮影協力してくれた小学校や中学校にも感謝しています。



2 映画は1人でつくるものだと思っていた風間さん。多くの力の集結によってつくられることを現場で学びました。



1 映像学科の2、3年生や、未経験者であるにも関わらず熱心に演技をしてくれた他学科の学生たち。



2 彫刻をしていた高校時代に「作品を残す側になりたい」と強く思い、保存修復を学んだという久保田さん。

## 地域の文化財を保存修復する、心と技法。 被災した仏像を3人の力で修復

久保田玲央 [美術史・文化財保存修復学科/大分県立芸術緑丘高等学校卒業]  
橋本彩 [美術史・文化財保存修復学科/学校法人明星高等学校卒業]  
藤澤明穂 [美術史・文化財保存修復学科/山形市立商業高等学校卒業]

寺の装飾が好きだという藤澤さん。台座の欠損部は、同じ地域の仏像や他の作例を調べながら補填しています。



美術史・文化財保存修復学科4年の久保田玲央さん、橋本彩さん、藤澤明穂さんは、卒業研究の一環として福島県伊達市の明福院で被災した仏像を修復しています。「経年による劣化もありますが、東日本大震災の揺れによって脆弱になった部分や土台の支えに欠陥があり、触れている間に破壊することがないよう細心の注意を払っています」という藤澤さんは台座修復を担当。欠損箇所を補填しながら歪みを直し、これからも長く保存されることを考え、剥落を抑え汚れを軽減しています。売り物ではなく信仰対象物を修復することについて深く受け止めた3人は、明福院に足を運び、住職や地域の人たちが望ん

でいる仏像の姿を認識しながら慎重に修復を進めています。仏像本体を担当している橋本さんは「住職からは全てをお任せいただきましたが、その分、責任の重さを感じました。3人でよく話し合って修復方針を定め、自分本位な修復にならないように注意しています」と話します。欠損部の復元を担当している久保田さんは「ずっと触れていると作品との距離が近くなってしまいます。自分の作品ではなく地域の大切な文化財なので、きちんとした形にして返したいという想いを大切にしています」と語りました。4年間学んだ技法、保存修復に対する理解と真摯な姿勢が結晶となっています。



### 美術史・文化財保存修復学科

かけがえのない美術作品や文化財の本物と出会い、感動を得る機会。この学科では、「絵画修復」「立体作品修復」「保存科学」「美術史」の4分野を専門的、かつ横断的に学びます。文化財保存修復研究センターと連携し、全国の美術館などから寄せられる作品の分析・修復に実際に携われる演習の数々は、芸術の奥深さを理解する貴重な時間となるはずですよ。

## 2~5ページに掲載している成果を実際にご覧いただけます！ 東北芸術工科大学 卒業/修了研究・制作展

日時:2014年2月11日(火・祝)~16日(日)10:00~17:00  
会場:東北芸術工科大学キャンパス[入場無料]

創造力と想像力は、人間の営みのあらゆる分野において基本となるものです。東北芸術工科大学は、このふたつの「ソウゾウリョク」を通して人材を育成するという理念を持ち、オリジナリティある発想で社会と結びつきながら力を発揮できる「豊かな社会人」を輩出しています。卒業/修了研究・制作展は、学部生は4年間、大学院生は6年間、学生自らが積み上げてきた成果を見ていただく機会であり、また他者の目を通して振り返る学びの場です。山形の環境や風土、この大学だけの空気感、そして東北出身者が多い学生の資質。それら全てが作品や研究内容にあらわれます。首都圏の学生たちとの違いをぜひ堪能してください。東北、山形をまるごと味わえる卒業展になると思います。

宮島達男 [現代美術家・東北芸術工科大学副学長]

[www.tuad.ac.jp/sotsuten/](http://www.tuad.ac.jp/sotsuten/)





## 山形の皆様と一緒に作る「山形ビエンナーレ」

東北の魅力をアートの力で掘り起こし、全国へ、世界へ、発信する「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2014」。開催期間は2014年9月20日より10月19日まで。山形の歴史・文化の象徴として広く県民に親しまれている文翔館を主な会場に、国内外からお招きするアーティストと地域の皆様とで共に創り上げる芸術祭を目指します。



### 子どもと地域と芸術の力で、共に創る未来。最初の一步。

東北芸術工科大学 学長 根岸吉太郎

「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2014」を構想したのは、東日本大震災のすぐ後です。私が学長に就任したのが2011年の4月でしたから、芸術はこの事態に対応できるのか、「東北」の名前を冠した大学ができることは何か、を問いかけられていると思いました。身体を動かしてボランティア活動を行い、被災者の声に耳を傾けて、その先に何ができるのか。東北の地に何を返し、どういう力になれるのか。産学連携や公開講座など地域と密接に関わっている本学が、オープンに構える

だけでなくもっと直接関わり合えば、芸術の力が人や地域に直に作用して新しいエネルギーが生まれ、地域再生の力となるのではないかと考える様になりました。山形には豊かな自然と脈々と受け継がれてきた歴史、文化的土壌がありますが、その魅力を外に伝えたり誇ったりする人はあまり多くはないようです。山形で暮らす人々が芸術によって目覚め、地域を再発見し、そこで生まれた文化や精神エネルギーのバトンを次世代に残していけたらいいなと思い、最初のボールを投げてみる

ことにしたのです。「山形ビエンナーレ」は、期間中にアート作品を鑑賞するだけではなく、いろいろな世代の方が一緒に体感し創り上げる芸術祭です。昨年末から開催中のコミュニティスクール「みちのおくつくるラボ」では既に、アーティストと市民の方々が一緒に準備を進めています。この芸術祭を通して1人ひとりの想いや力が社会に還元され、次につながっていくことを期待しています。  
◎山形ビエンナーレURL: <http://biennale.tuad.ac.jp/>

### ゼロからビエンナーレをつくる「みちのおくつくるラボ」開講中。

※ facebook にラボのレポートを掲載中です。第1期受講生の募集は終了しています。



### BOOK LABO. | 旅の本をつくる

平澤まりこ [イラストレーター] × 上條桂子 [ライター、編集者]



“旅の本をつくる”というテーマで、「山形ビエンナーレ2014」公式ガイドブックを制作している〈BOOK LABO.〉。受講者それぞれの視点で山形に息づくモノ・ヒト・コトを集め、既存の本には載っていない新しい切り口のガイドブックを目指します。講座では、1人ずつ本に求めるものを考え発表し意見を共有。グループに分かれて活発に意見を交わす中、イラストレーターの平澤まりこ氏とライターで編集者の上條桂子氏は、ナビゲーターとして細やかにサポートしています。「自分の言葉で自分の山形を語ることで、ご自身にも新たな魅力が見えてくると思います。受講者の方はどなたもしっかりとした本のビジョンを持っていて、熱量の高さを感じました。いい本になる予感がしています」という平澤氏。〈BOOK LABO.〉はひとつのチームとして動き出しています。



「それぞれの山形を掘り下げ、他の受講者と意見を交わす工程も本の一部。この講座が山形について知るいい入り口になればいいですね」平澤まりこ (講師・イラストレーター)



「一冊の本をきっかけに鹿児島県に一人旅をしたことがあります。山形のおもしろさを伝え、そんな風に心を動かす本づくりがしたいです」岩井巽 (学生/山形市)

### FOOD LABO. | カフェをつくる

Goma [料理創作ユニット] × 中山晴奈 [フードデザイナー]



山形の食文化を活かしたメニュー開発から食のまわりのコーディネート、子どもが喜ぶインテリアまで、芸術祭で開くカフェ全体をデザインするのが〈FOOD LABO.〉です。受講者と一緒に考えていくのは、料理創作ユニットGomaと、フードデザイナーの中山晴奈氏。Goma中村亮子氏は「雪深い山形には、保存食など人の知恵による食文化がありますね。おいしくて、いいものがたくさん眠っているイメージ。山形のみなさんとつくるカフェは、あたたかい想いやつながりが感じられる場所になるのでは」と語っています。講座では、スクール終了後にみんなで一緒に食べられるものを作りたい、というアイデアから果実酒を作りにも挑戦。受講者は、リンゴ、カリン、カワラグミなど地域で獲れた果実を持ち寄り、いきいきとした表情で地域の“食”と向かい合っていました。



「山形の方は食に対する意識がとても強く、ディスカッションをすると食に関するボキャブラリーも豊富で、こちらが驚かされます」中村亮子 (講師・料理創作ユニットGoma)



「子どもと郷土をつなげていきたいという想いから参加しました。アイデアを膨らませ、世代を越えて楽しめるカフェを作りたいです」今奈美絵さん (給食センター勤務/山形市)

### ART LABO. | アートフェスをつくる

宮本武典 [キュレーター] × 小坂橋基希 [デザイナー]



〈ART LABO.〉は、市民プロジェクトとして芸術祭の中で1ヶ月間のアートイベントを実現すること、絵本作家・荒井良二氏の展示企画をミッションとして取り組んでいます。講座では、隣の人に似合うヒゲを描く遊びやジェスチャーゲームなど、自分たちで新しくルールを作って全体でやってみる試みも。様々な視点から企画を出し合い、お互いの意見を認め合いながら魅力的なアートフェスの創出を目指しています。



「地域の人がつくり受け取るアートフェス。出会った人や作品、地域が関係性を築き、残ってつながっていく有機的なイベントにしたいです」小坂橋基希 (講師・デザイナー)



「大学時代に芸術を学んだこともあり、芸術を通して社会とつながりたいと思い参加。高齢者も進んで足を運ぶイベントを考えます」山川睦美 (主婦/山形市)

## EVENT SCHEDULE

- 佐藤志保さんが個展「クリテリウム」を開催  
映像学科卒業生で学科副手の佐藤志保さんが、新作シリーズ6点を出品。  
日時:2013年11月16日(土)～2014年2月2日(日) 会場:水戸芸術館現代美術ギャラリー(水戸市五軒町1-6-8) 入場料:800円(「グリーン・アーモンド」展入場料に含む) 水戸芸術館URL:<http://arttowermito.or.jp/>
- 一般入試(前期) / センター試験利用入試(1科目)出願受付中  
殆どの学科で教科科目のみで受験可能です!  
出願期間:1月10日(金)～23日(木) 試験日:1月31日(金)
- センター試験利用入試(2科目前期)  
殆どの学科でセンター試験の結果を利用して受験可能!  
出願期間:1月10日(金)～27日(月) 試験日:個別試験なし
- 1年生演習課題作品展「これは本ではない」  
日時:1月21日(火)～27日(月)10:00～18:00 会場:本館ラウンジ/入場無料  
○公開講評会 1月21日(火)、22日(水)両日14:00～16:50
- 2年生修了作品展「山形の冬の魅力を伝えるデザイン」  
日時:1月24日(金)～31日(金)10:00～18:00 会場:スタジオ144/入場無料
- そらと丘の工作室「オリジナルのソリを作って遊ぼう!」  
事前お申込みが必要です。詳しくは大学HPをご覧ください。  
日時:2月11日(火・祝)10:00～12:00 会場:悠創館(山形市上桜田366番地)  
対象:こども(幼児は保護者同伴) 定員:25名 ※スキューヴァ、防寒着をご用意ください。講師:花澤洋太 総合美術コース准教授 参加費:1人500円
- 卒業 / 修了研究・制作展  
詳細は本紙5ページ、および大学HPをご覧ください。  
日時:2月11日(火・祝)～16日(日)10:00～17:00 会場:東北芸術工科大学
- 一般入試(後期) / センター試験利用入試(2科目後期)  
2014年度入試最後の入試です。  
出願期間:2月22日(土)～3月10日(月) 試験日:3月16日(日) / センター試験利用入試は個別試験なし
- 東北芸術工科大学卒業・修了展[東京展]  
2013年度卒業 / 修了研究・制作展の作品から、美術科の選抜作品が一堂に会します。ゲストトークなども検討中です。追って大学HPにてご案内いたします。  
日時:2月23日(日)～27日(木)9:30～17:30 会場:東京都美術館ロビー / 第3、第4展示室 / ギャラリーA 出展学科:美術科  
○オープニングパーティ:2月23日(日)17:00～(要会費)
- 平成25年度 卒業式・修了式  
式終了後、本館の教室で各学科・学系・コースの学位記授与を行います。詳細は別途対象の方へお送りするご案内をご確認ください。  
日時:3月21日(金・祝)10:30～ 会場:東北芸術工科大学体育館
- 受験生応援レクチャー「失敗しない大学選びの極意!」  
将来の夢や就職活動を見据えた進路選択・大学選びのポイントを解説。2014年第一弾となる芸工大進学説明・見学会を同時開催します。  
日時:4月2日(水)10:00～16:00 会場:東北芸術工科大学  
高校生の来場特典:限定「芸工大AO合格ハンドブック」プレゼント  
交通:山形駅前、仙台駅前より無料送迎バスを往復運行
- 平成26年度 入学式  
平成26年度 入学式を以下の通り執り行います。詳細は別途対象の方へお送りするご案内をご確認ください。  
日時:4月6日(日)10:30～ 会場:東北芸術工科大学体育館
- グラフィックデザイン学科3・4年合同企画展  
GRAPHIC PRESENTATION 2014  
日時:5月16日(金)～25日(日)9:00～19:00(土曜は17:00まで)※18日(日)休館  
会場:本館7階ギャラリー / 入場無料
- 春のオープンキャンパス2014  
学科コースがまる分かりの充実企画で高校生、受験生の皆さんをお待ちしています。  
日時:5月25日(日)10:00～16:00 会場:東北芸術工科大学
- グラフィックデザイン学科3・4年合同企画展  
GRAPHIC PRESENTATION 2014 [仙台展]  
日時:6月6日(金)～10日(火)10:00～19:00 会場:せんだいメディアテーク5階ギャラリーC / 入場無料  
○グラフィックデザイン学科入試相談会同時開催 日時:6月7日(土)、8日(日)10:00～19:00 グラフィックデザインのレクチャー、ゲストトークなども開催予定
- 夏のオープンキャンパス2014  
学科コースがまる分かりの充実企画で高校生、受験生の皆さんをお待ちしています。  
日時:8月2日(土)・3日(日)10:00～16:00 会場:東北芸術工科大学

※在学生や卒業生の方からのイベントなどの告知や、受賞情報をお待ちしております。広報室へお気軽にご連絡ください。また、日程や掲載内容は変更になる場合がありますので、HPなどで事前にご確認願います。

# TUAD IS HERE

●日常の中の芸工大

障害のある人のアートを魅力的な商品にデザイン。多様な存在を認める社会を目指しています。

芸術学科(現:美術史・文化財保存修復学科/歴史遺産学科)卒業生の柴崎由美子さんが事務局を務めるAble Art Company(エイブルアート・カンパニー)は、障害とアートを軸に多様な存在を認める社会づくりを目指し、障害のある人の作品を商品デザインに使用することを仲介して仕事につなげています。アーツ千代田

3331内にある東京事務局では、作品展示や商品販売、ワークショップやセミナーを開催。2013年12月5日から25日の期間中は、ショップ形式の「HUMORA〜つながるプレゼント〜」を実施し、多くの関心を集めました。大手企業や地域の特色ある素材と技術がアーティストの感性と結合し、魅力的な商品を生み出しています。

WEB Able Art Companyの活動と仙台での展示の様子をご紹介します。



## 表紙のアート



“家族”がテーマの「月山青春音楽祭2013」  
廃校を舞台に世代を越えて音を楽しみました。

昨年の11月3日、「月山青春音楽祭2013」が旧西山小学校(西川町)で開催されました。“日本に音楽文化を根付かせたい”寺岡呼人氏の熱い思いから生まれた世代を越えたこのイベントは、今年で2回目。企画構想学科3年(通称: Cirius)が平原綾香氏、KAN氏のライブ、レコード展等を企画・運営。1日限りの音楽祭は感動とともに幕を閉じました。

WEB イベント当日の様子をご紹介します。

## g\*gとは

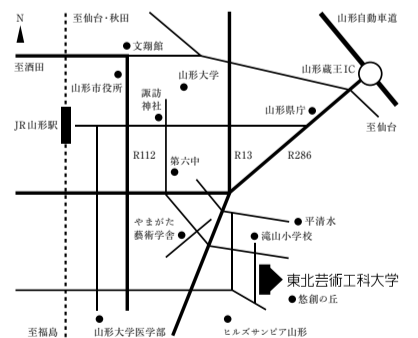
芸工大広報誌のタイトルは「g\*g」。最初の「g」は芸工大のgであり、もうひとつの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持つ皆さんを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き! このデザインがかっこいい! 景観がきれい! こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民。そんな芸術市民のみならずと芸工大が、「+」より強い「\*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g\*g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。  
広報室では、「g\*g」を置いていただけるショップやギャラリーなどを随時募集中です。

## 東北芸術工科大学

【芸術学部】文芸学科、美術史・文化財保存修復学科、歴史遺産学科、美術科[総合美術/日本画/洋画/版画/彫刻/工芸(漆芸、陶芸、金工)/テキスタイル]  
【デザイン工学部】コミュニティデザイン学科\*、企画構想学科、プロダクトデザイン学科、建築・環境デザイン学科、グラフィックデザイン学科、映像学科、メディア・コンテンツデザイン学科  
【大学院芸術工学研究科】博士後期課程 芸術工学専攻、修士課程[芸術文化専攻/デザイン工学専攻/デザイン工学専攻 仙台スクール]  
【研究機関】やまがた芸術学会[共創デザイン室/東北復興支援機構TRSO]、東北文化研究センター、文化財保存修復研究センター、こども芸術教育研究センター、デザイン哲学研究所、東アジア芸術文化研究所  
※2014年4月開設

g\*g公式サイト <http://blog.tuad.ac.jp/gg/>

## 大学周辺マップ



東北芸術工科大学広報誌 g\*g  
2014年1月15日発行  
発行:学校法人東北芸術工科大学  
〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5  
東北芸術工科大学広報室  
TEL:023-627-2246 FAX:023-627-2185  
URL: <http://www.tuad.ac.jp/>  
Email: [hello-gg@aga.tuad.ac.jp](mailto:hello-gg@aga.tuad.ac.jp)

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2014  
印刷:田宮印刷株式会社